

もの忘れ・認知症相互見守り助け合い協定書案

もの忘れ・認知症は高齢者の間ではよく見られる病気です。しかしながら、通常その発症は数年かけてゆっくり進み、また自覚症状が見られないことがしばしばあります。家族からのもの忘れの指摘を否定したりもします。このため早期発見・早期対処がむずかしくなります。

そこで私たちは、旧知の間柄を活かして、お互いのもの忘れを相互に見守ります。そして、もしもの忘れが進んでいると感じたら本人に注意を促かすこと、促かされた場合は病院に行くなど適切な行動をとること、そしてその後もお互い助け合うことを約束し、ここに協定をむすびます。

名前 印 年 月 日 電話 住所

私の希望など

名前 印 年 月 日 電話 住所

私の希望など

名前 印 年 月 日 電話 住所

私の希望など

名前 印 年 月 日 電話 住所

私の希望など

名前 印 年 月 日 電話 住所

私の希望など